

→表面から 子どもたちがナイスライ事業で職場体験をする等、様々な体験活動を通して、勤労観・職業観や感謝する心等をはぐくみ、子どもたちの「生きる力」を育成しております。今後それらの主体的・実践的な活動がますます充実し、子どもたちのキャリア形成に資する学習が推進されるよう各学校に働きかけて行きます。

- ③ 図書室は3階より1階の方が行きやすく、利用率や学力とも関連があるのではないのでしょうか。

(回答) 施設課

「図書室は、十分な広さの空間を確保するとともに児童の活動範囲の中心的位置になるよう、また普通教室等からの利用のしやすさ等を考慮して配置することが望ましい」とされています。※文科省・学校施設整備指針(抜粋)

図書室の配置を含め学校施設の整備を行う場合、学校と十分に協議を行い、子どもたちが利用しやすい図書室となるよう整備を行いたいと考えております。

- ④ 高学年ではより細やかな指導が必要と思いますが、35人学級は無理でしょうか。

(回答) 教育政策課

35人学級につきましては、国と県において小学校1・2年生についての予算措置がされており、小学校3・4年生及び中学校1年生については、本市独自で予算措置を行い導入しているところです。なお、導入していない学年につきましても、複数の教師が同時に指導するチーム・ティーチングや学級を分けて指導する少人数指導を取り入れており、教員が子ども一人ひとりと関わり、個に応じたきめ細かな指導を行っているところです。

- ⑤ これまでの全国学力学習状況調査から見える本市の優れている点や課題を教えてください。また、課題に対し家庭でも取り組める事例をお示しく下さい。

(回答) 指導課

全国の調査結果と比べると、国語では基礎的な知識を活用して答える問題に課題が見られ、例えば、インタビューのやり取りを学校新聞の記事にまとめて書くこと等の正答率が低くなっています。また、数学では基礎的な問題に課題がみられ、例えば、末尾の位がそろっていない小数の引き算等の正答率が低くなっています。家庭で計画的に学習したり、本を読む習慣がある子どもは、正答率が高い傾向にあることが本調査により明らかになっておりますので、ご家庭においても学習の計画を一緒に立てて、予習・復習の習慣を身に付けさせたり、本に興味を持つような声かけや環境づくりをしていただけたらと考えます。

- ⑥ 計算ドリルを高学年にも復活させて、繰り返し学習させてはどうか。

(回答) 指導課

本市では学びノートを作成しており、繰り返し学習できるように工夫しています。追加のシート等についてはデータにより学校に配信する等、さらに工夫を図りたいと思います。

- ⑦ 学力に格差が見られますか。家庭にどのように伝え、授業の工夫はどのようにされていますか。

(回答) 指導課

子ども一人ひとりの学力に関しては、全国学力状況調査や全国標準学力検査(NRT)等によって、より客観性のある学力の実態把握に努めています。

結果については、個人には個表で、各学校で分析したものを学校便り等で保護者にお知らせしております。

また、授業の工夫に関しては、本市独自の「授業づくり5つの視点」を全職員に配布し、各学校でこの視点を基に本時のねらいを明確にしたり、授業に見通しと振り返りを持たせたり、学習意欲を高める等の授業改善・工夫に努めているところです。

- ⑧ 学力は上がっていますか下がっていますか。その理由と市教委の今後の取組はいかがですか。

(回答) 指導課

本市の子どもたちの学力は、全国標準学力検査(NRT)の結果より、小学校の学力は、過去5年間全ての学年(1年生は未実施)で標準値50.0以上を保っています。平成25年度以降は、ほぼ横ばい傾向にあります。また、中学校においては過去5年間、全ての学年で偏差値52.0以上を保って、ほぼ横ばいで推移しています。

その理由としては、指導力向上のための取組や、学びノートの効果的活用、少人数指導等、個に応じた指導の成果が出ているものと考えられます。

今後も、児童生徒の学力の向上を図る施策として校内研修の充実や、「授業づくり5つの視点」に基づいた授業改善、学びノート教室の開催、授業中子どもたちに直接指導する、学力向上支援員を学校へ派遣する等、総合的な学習支援をおこなってまいります。

- ⑨ アクティブラーニングの取組が活発になると聞きます。いわゆるESDの取組についての方針・方向性・ユネスコスクールへのエントリー支援についてのお考えをお聞かせください。

(回答) 指導課

ESDの取組については、現在、初期段階の取組を始めております。具体的には、次の3点となります。

- ・環境教育担当者会で、全小・中学校の担当者にキーワードとして「ESD」を示し、意識をもって各校の環境教育に取り組むよう促しております。
- ・全小中高等学校に「学校ではじめる ESD 環境教育リフレット(環境省九州環境パートナーシップオフィス(EPO九州))」を配布し、各学校にESD環境教育の概略について周知しております。
- ・全幼小中高等学校に「平成28年度 日本/ユネスコパートナーシップ事業 ESD重点校形成事業～輝け!サステイナブルスクール～(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU))」を通知しております。

ユネスコスクールへのエントリー支援としては、現在、上記のように「ESD」について初期段階の周知を図っている段階です。先進的な学校や意欲的な学校に対応できるように、ユネスコスクールの初期段階のものである上記の「サステイナブルスクール」を紹介しているところです。

→次号へ続く

